



時間をかけて、心を耕して創り出した文化発表会



昔から「暑さ寒さも彼岸まで」と言われますが、ひと雨ごとに気温が下がり、少しずつではありますが、秋らしくなってきました。朝晩の気温の差が大きくなってきますので、ご自愛ください。

さて、9月19日（木）、文化発表会が開催されました。冒頭、私から開会式で『文化』を英語で表現すると、『culture』と言います。『culture』は元々“土地を耕す”意味でしたが、その後“心を耕す”意味でも用いられるようになり、そこから『教養』や『文化』を意味するようになりました。本校においても、特に文化部の生徒たちは文化発表会に向けて、長い時間をかけて心を耕し、鍛錬や修養を重ねて本日を迎えていると思います。だからこそ、鑑賞する皆さんは、そうした思いを心で感じ取り、想像して笑顔で応援して欲しい」と伝えました。開催形態としては、今年度も2部制とし、全校生徒を半分に分けて、ステージ部門と展示部門を交替で鑑賞する形式で行いました。合唱部や吹奏楽部にとっては、1日に2回の公演となり、暑い中大変だったと思いますが、よく頑張ってくれました。合唱部は平和を願う気持ちを込めた曲や古くから日本に伝わる童謡など、さまざまなジャンルの曲にチャレンジしていました。吹奏楽部は迫力の満点の演奏の中にも、途中でダンスを交えるなど、楽しいステージを創り出してくれました。

展示部門は今年度も8組や科学部・美術部・ボランティア部といった文化部に加え、1，3年生の総合的な学習の時間の成果物や国語科・理科といった教科展示もあり、とても充実していました。8組の展示は季節や行事ごとに生徒一人ひとりが時間をかけて丁寧に創り上げた作品が数多くあり、日常の学習活動の集大成とも言える空間でした。見学している生徒からは、「すごい!」「かわいい!」といった感嘆の声が上がっていました。科学部は理科室で吸熱反応や電気抵抗（ショート）の実験等を披露したり、パソコン教室でシューティングゲーム等を行い、来場者を楽しませてくれました。美術部の教室では見事な黒板アートや丁寧に作られた個人作品が展示されていましたが、特に印象的だったのが、部員が夏休みに時間をかけて作ったという「亀の甲羅」でした。将来的にはかめのさわルームに展示したいと思いました。ボランティア部の教室ではフォトスポットや射的など、体験型のゲーム等もあり、教職員が書いた名言カードをもらって喜んでいる生徒も多かったです。理科の展示では身近な題材で生徒自ら実証した自由研究や写真ではないかと思わせる精密画などが展示されていました。国語科では『奥の細道』になぞらえて、修学旅行での感動を俳句にした『私の京の細道』が展示され、「舞台から 初夏の緑と 武士の影」といった清水寺の舞台の景色や歴史が想像できる感性豊かな作品もありました。また、今年度は新たに音楽科の展示もあり、合唱祭で各クラスで歌う曲について、歌詞から読み取ったイメージを絵にした作品が各教室に掲示されていました。同じ曲でも人によって捉え方が異なり、これから練習を積み重ねる中で、どのような合唱になっていくのか楽しみになりました。

そして、何よりステージ発表をしっかりと聴ける態度や展示物等をリスペクトして鑑賞する姿勢は滝の沢中学校の誇らしい“文化”であると感じた1日でした。これからも守り続けたい本校の“文化”です。3年生のある生徒が書いた感想の一部を次のとおり紹介します。

3年生になって改めて鑑賞すると、「自分たちも1，2年生の時にやったなあ」とか思い出されて良かったです。文化発表会では学年に関係なく、その人の個性がわかるので、面白かったです。



生徒会本部役員生徒から意見を聴きました

9/12(木)第3回学校運営協議会が開かれました。今回は5月の全校生徒との交流会からさらに発展させ、学校運営協議会委員の皆様と生徒会本部役員生徒との座談会を実施しました。これまでは学校の様子については、職員側から情報提供するだけでした。そこで、生徒自身が本校をどう捉えているのかを直接お伝えする必要もあるのではないかと思い、企画しました。生徒会本部役員生徒も座談会に向けて、自発的に事前のミーティングを開いて準備してくれました。座談会の内容については、以下のとおりです。

(1) 「滝の沢中学校の良いところ、すばらしいと思うところ」について

- 生徒から
- ・新しいことにチャレンジできること
 - ・「いいね」祭実施 協力できること
 - ・先生と生徒の関係性
 - ・朝の清掃への協力
 - ・あたりまえのことをあたりまえにできること
 - ・地域とのつながり

○質疑応答から

- ・入学前の不安な気持ちが、入学後中学校生活が楽しくなったきっかけ

(2) 「今後さらに伸ばしていきたいところ、改善すべきところ」について

- 生徒から
- ・行事の活発化
 - ・すすんで意見を言うこと
 - ・施設改善
 - ・上級生から下級生への引き継ぎ
 - ・「いいね」を広げていくこと

○質疑応答から

- ・後輩に意見や経験を伝えていく方法

(3) 生徒会本部役員から学校運営協議会委員の皆様へ質問

- ・進路に向けてモチベーションの上げ方
- ・受験勉強と中学校生活を楽しむことの両立の方法



終了後、本部役員生徒からは「自分の悩みなどを親や先生以外の大人に相談する機会はあまりないので、貴重な経験ができました」と語ってくれました。次回の第4回では『けやきの会』との座談会を予定しています。本校が抱える課題について、保護者と共に考える機会となることを期待しています。(この座談会については10/4のタウンニュースに掲載されることを申し添えます)

“使われる”のではなく、正しく“使う”ことが大切

NPO 情報セキュリティフォーラムのスタッフの方々に講師として、ご来校いただき、9/12(木)に2年生、20(金)に3年生、24(火)に1年生において、それぞれクラスごとにインターネット被害未然防止講座を実施しました。講師の方からはここ数年でSNSによる被害件数が増加していること、スマホやゲーム機器などを利用したオンラインゲームで、子どもが保護者に無断で決済をし、高額請求になったという話、写真等をSNSに掲載して住んでいる場所等が特定されてしまった話、どのような経緯でネット依存になってしまうかなど、端末を用いて、わかりやすく説明していただきました。ある調査によれば、中学生の1日のスマホ平均利用時間は約3時間となっています。今や多くの子どもたちにとっては、手放せない“道具”となっています。もちろん、正しく使えば、大変便利なスマホやタブレットですが、使い方を誤ると本人はもちろん、周囲の人々にも悪影響を与えることとなります。この機会にご家庭でも今一度使い方を見直していただき、約束事等を確認していただければ幸いです。



私が3年生に道徳の授業をしました

9/17(火)、24(火)にそれぞれ3クラスずつ、私が3年生に道徳の授業をしました。久しぶりの授業で緊張しましたが、生徒が前向きに取り組んでくれたので、私自身も楽しく授業をすることができました。教材は教科書に掲載されている『二通の手紙』でした。あらすじについては割愛しますが、授業のねらいとしては「法やきまりの意義について理解を深め、それらを遵守し、義務を果たすことで、より良い社会をつくろうとする道徳的実践意欲と態度を育てる」というものでした。もちろん、法やきまりは守ることは、3年生であれば、誰でも理解していることです。しかし、現実にはさまざまな事情でそうすることが困難な場合もあります。そんな時こそ知恵を出し、葛藤を乗り越え、適切に行動が取れる人間になって欲しいと思います。ある生徒の感想の一部を次のとおり紹介します。



規則は人を思いやり、みんなが笑顔で過ごせるように作られているものなのかと思うことができた。今回の授業を受けて、ルールや規則がある理由をもっと考えてみようと思った。